

# 日韓トンネル通信

編集/発行  
特定非営利活動法人  
日韓トンネル研究会

事務局：東京都千代田区飯田橋4-1-11  
〒102-0072 信濃ビル6階  
TEL 03-3265-8813 FAX 03-3237-1012  
E-mail office@jk-tunnel.or.jp

九州支部：福岡市南区老司3-5-28-605  
〒811-1346  
TEL 092-556-7110  
☎0120-09-2188



## (報告)第11回通常総会が行われました。

第11回通常総会が6月18日(水)、ホテルアルカディア市ヶ谷私学会館で行われた。冒頭の挨拶の中で野澤会長は次のように語った。

「2013年10月29日、トルコのイスタンブールにおいて、ボスポラス海峡を横断する地下鉄が開通しました。難しい海峡を沈埋工法を主体とし、シールド工法とNATMを組合わせて日本の技術力と資金協力で実現したものです。150年の夢が実現できたことに大統領が感謝し、安倍首相が祝辞を申し上げます。本日は現場の責任者を務められました小山文男氏のお話を伺うことができました」

また、総会直前に開かれた講演会で江島潔参議院議員は次のように挨拶した。

「私の前職は下関市長です。下関には関門トンネルや関門橋があり、かつては朝鮮半島との海の玄関口でした。市長時代から釜山と下関が地続きになると考えていました。



日韓トンネルはまさに江島潔参議院議員 21世紀の大プロジェクトになると思います。安倍総理も日本の技術を輸出する技術立国日本を目指しています。皆様のご努力がいつの日か必ず日韓の新しい時代のみならずアジアの新時代を築くことになると確信していま

す。その日の実現に向けご尽力いただけるようお願い申し上げます。私は参議院では国土交通委員会に所属しています。いずれ日韓トンネルも委員会や国会の中で議題として取り上げさせていただき、日本ではこんな夢を持ち、またそれに取り組んでいらっしゃる大勢の研究者の皆様がいらっしゃることを紹介したいと思います」

### ◇議 事

野澤会長が議長に選出された。平成 25 年度の事業報告があり、以下のことが承認された。

#### 【平成 25 年度の事業報告】

#### 1. 社会教育事業

##### ◇渉外活動

日韓関係に関わる各種団体の代表者や議員などを対象に日韓トンネル構想進捗についてブリーフィングをした。その結果、「世界の人とモノの動きを俯瞰すれば、日本と韓国が海底トンネルで繋がることは当然なこと」といった肯定的な意見が多く出た。  
◇日韓トンネルの広報のため講演会を行った。

① 2013 年 3 月 19 日 鉄道建設調査会にて、  
演題：日韓トンネルの構想と実現への展望、講師：野澤太三（当会会長）。

② 2013 年 6 月 5 日 第 10 回通常総会にて、  
演題：日韓新時代のための提言/アジェンダ 21 と日韓トンネル

講師：永野慎一郎（当会理事）

③ 2013 年 10 月 16 日 九州支部報告会にて、  
演題：釜山、福岡アジアゲートウェイ

講師：姉川雄一（福岡市経済観光文化局観光コンベンション推進課長）

④ 2013 年 10 月 16 日 九州支部報告会にて、  
演題：オリンピックと日韓トンネル

講師：野澤太三（当会会長）

#### 2. 調査研究事業

##### ◇トンネル工法の研究

海底下の構造物に海水が与える影響を調べるため、既存資料の収集、現地視察、ヒアリングを実施した。現地視察では関門鉄道トンネル（在来線）と新関門トンネル（新幹線）の内部の湧水を視察した。

##### ◇経済効果の研究

次の調査を実施した。① GDP（国内総生産）と国内物流量の関連研究、②日韓トンネルの輸送力推算、③日韓トンネルを経由する貨物輸送の研究

#### 3. 国際協力事業

##### ◇中国での活動

2014 年 5 月 14 日から 16 日まで訪中した野澤会長は次のように報告した。

「今回は中国人民対外友好協会の設立 60 周年を祝い、全世界の関係者約 1000 人が招待されました。日本からも鳩山元首相、丹羽元大使



訪中報告する野澤会長

をはじめ、多数の方々が参加されました。私は日中科学技術文化センターの会長として、これまでの技術協力を説明し、今後のテーマとして日韓トンネルの説明を行いました」

##### ◇韓国側提携団体との交流

・会合の開催

・韓国側発行の海底トンネル誌への投稿

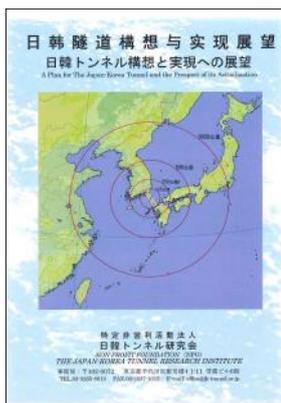
#### 4. 情報収取事業

ホームページの更新

#### 5. 刊行誌の発行事業

・日韓トンネル通信の発行（3回）

・日韓トンネルのパンフレット（中国語版）の作成



中国語のパンフレット

### 【平成 26 年度の事業計画案】

平成 26 年度の事業計画を審議し、以下のことが承認された。

#### 1. 社会教育事業

◇日韓トンネル計画のブリーフィング実施

◇会員拡大

#### 2. 調査、研究事業

◇海底構造物に及ぼす地下水の影響調査

◇経済効果の研究

#### 3. 国際協力事業

韓国など諸外国で開催される講演会やシンポジウムなどで日韓トンネルを含め、海底トンネルに関する情報を提供、収集する。

#### 4. 情報収集・提供事業

ホームページの更新

#### 5. 刊行紙の発行事業

◇日韓トンネル通信（4回）

◇パンフレットの増刷

### 【定款変更】

会則第 16 条で定める役員の任期を以下のように変更した。

（変更前）役員の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

（変更後）役員の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する通常総会の終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。

### 【役員の変更】

◇退任：濱建介（副会長）、辻秀則（理事）

◇就任：徳野英治（顧問）

就任が決まった徳野英治顧問（一般財団法人国際ハイウェイ財団会長）は、その挨拶で次のように述べた。



徳野英治顧問

「日韓両国関係は難しい時期にありますが、英仏海峡トンネルは英仏両首脳のカンタベリー合意で一挙に進展しました。日韓トンネルも日韓両国首脳が合意できるような国民的理解の拡大が必要と思います。私も各県で有識者、議会関係者に日韓トンネル推進のための意見書採択を働きかけています。対馬市や徳島県では採択されました。日韓トンネル研究会の皆様とともに、日韓両国間に和を広げていく所存でございます」

### （報告）地下構造物に及ぼす地下水の影響勉強会が行われました。

2014 年 3 月 19 日（水）、千代田区飯田橋の当会本部で、地下構造物に及ぼす地下水の影響に関する勉強会を行った。日韓トンネルを進めるにはライフサイクル全体を見通した計画づくりが必要となっている。これまでの研究で、海底下の構造物と地下水

に関する資料は国内外とも希少だということがわかっている。引き続き資料収集や現地視察を実施し、得られた資料を、地下水が淡水と海水の場合に分け、それら地下水が地下構造物に及ぼす影響を研究する。

## (報告)幹事会が開かれました。

2014年5月23日(金)、千代田区飯田橋の当会本部で幹事会が開かれた。来る6月18日開催の第11回通常総会の議案書作成し、同日開催の講演会のテーマや演者について検討した。

## (お知らせ)

①6月18日開催の講演会の報告は本紙次号に掲載する予定です。

②日韓トンネル通信のバックナンバー

### (創刊号～第30号)

第11回通常総会を終え、当会は発足満10周年を迎えました。これも偏に会員皆様方のお力沿えによるものと深く感謝



申し上げます。この10年間に発行した「日韓トンネル通信」の創刊号から30号までのバックナンバーを取り揃えています。全てカラー版に直しました。お入り用の際は事務局までメールあるいはFAXなどでお知らせください。なお、印刷代と送料のご寄付を下記の通りお願い申し上げます。

- ・印刷代：2頁、4頁→50円、8頁→100円
- ・送料：1回につき82円(部数問わず)

創刊号：2004/11/01, NPO法人日韓トンネル研究会の発足、アジア7か国土木工学大会出展。4頁。

第2号：2005/03/01, 総合研究開発機構(NIRA)で報告会開催, 大韓土木学会と共同研究調印, 2頁。

第3号：2005/06/15, 共同研究第2回中間報告会, 4頁。

第4号：2005/09/15, 世界道路交通博覧会(韓国)に出展, 2頁。

第5号：2006/07/15, 野澤太三会長就任, 共同研究最終報告会, ソウル事務所開設, 4頁。

第6号：2007/02/01, 韓国国際見本市に出展, 釜山市長と慶尚南道知事を訪問, 英仏海峡トンネル視察, 4頁。

第7号：2007/05/15, 日韓トンネルに関するセミナー(ソウル)とシンポジウム(釜山)に参加, 4頁。

第8号：2007/07/15, 釜山巨済間連結道路建設現場を視察, 展示会「DEMEX(ソウル)」に出展, 4頁。

第9号：2007/09/01, 宍州市と対馬市の市長など関係者に日韓トンネルを説明, 4頁。

第10号：2008/02/01, 日韓海底トンネル専門学会セミナー(大邱)に参加, CIVIL EXPO 2007に出展, 4頁。

第11号：2008/06/15, ボスボラス海峡海底トンネル工事現場を視察, 韓国側との共同研究調印式, 4頁。

第12号：2008/10/15, 福岡・唐津・宍岐・対馬各市長を訪問, 釜山発展研究院一行と青函トンネル視察, 4頁。

第13号：2009/04/10, 中国鉄道・物流事情を視察, 釜山市長と慶尚南道議長を訪問, 釜山で日韓トンネル政策セミナーを開催, 巨済島と江西地区視察, 4頁。

第14号：2009/05/10, 第5回理事会の開催, 2頁。

第15号：2009/06/15, 第6回総会の開催, 4頁。

第16号：2009/10/01, 対馬懇談会の開催, 2頁。

第17号：2010/01/15, 慶南の韓日海底トンネル推進方向セミナーで発表, 当会取材及びテレビ放映, 4頁。

第18号：2010/04/01, 巨済島と江西地区視察, 釜山でルートに関する日韓合同会議開催, 4頁。

第19号：2010/07/01, 地域発展委員会の国際会議で日韓トンネル講演, 2頁。

第20号：2010/11/01, 第11回国際シンポジウム(ソウル)に参加, 釜山で日韓トンネルに関する国際セミナー開催, 4頁。

第21号：2011/07/01, 第7回総会で森善朗元総理祝辞, 講演「日韓トンネルに関する米国からの報告」, 4頁。

第22号：2011/09/01, 韓日トンネル研究会との合同会議, 2頁。

第23号：2012/04/01, トンネル工法勉強会開催, 4頁。

第24号：2012/07/01, 3カ国(日本、韓国、ロシア)代表者会議参加, 8頁。

第25号：2012/07/15, 韓日議員連盟・韓日親善協会中央会を訪問, ソウルの憲政会館訪問, 4頁。

第26号：2012/10/15, 韓日協力委員会(ソウル)で日韓トンネル招請講演, 4頁。

第27号：2013/01/01, 参議院協会で日韓トンネルを講演, 仁杉学校で日韓トンネルを講演, 4頁。

第28号：2013/07/01 鉄道建設調査会で日韓トンネルを講演, 第10回通常総会開催, 8頁。

第29号：2013/10/15, 関門トンネルの湧水を視察, 4頁。

第30号：2014/03/01, 九州支部報告会開催, 4頁。